

14 郡山金魚資料館

—色も形もいろいろです—

暑い毎日、「水の中で過ごしているキンギョがうらやましい」という手紙、ほんとうですね。

さて、「お兄ちゃんは『キンギョはフナのなかまだ』と言うけれど、どうして金魚は赤いのですか」という質問への答えです。

今から 2000 年ほど前、中国で赤いフナが見つかったそうです。ふつうのフナから違うものが生まれたのです。これを突然変異(とつぜんへんい)といいます。人々は、この珍しいフナを育ててなかまを増やしました。きれいな赤色のもの、赤白の模様のきれいなもの、ひれの大きなものなどを選んで育てていくうちに、いろいろなキンギョが生まれました。日本へは 500 年ほど前に伝わり、郡山へは山梨からおいでになった殿様が持って来られたそうです。今、大和郡山市は「平和のシンボル、金魚が泳ぐ城下町」として有名です。

おじさんは、もっとキンギョのことを勉強しようと、郡山金魚資料館に行ってきました。秀樹君のお父さんが毎日、県庁に行くのに使っている近鉄樫原線の電車が JR 大和路線と交差するところの近くです。ここにはたくさんのキンギョが飼われています。珍しいキンギョもありました。

長い間、じーっとキンギョを見つめているおじさんがいました。「何を見ているのですか」と尋ねると、「キンギョを選んでいるのです。これはひれが曲がっていますね」と言われます。「そうかな。そんなに変ではないけど」と思ったのですが、そんなちょっとしたことに気を付けてどれを買うか決め、金賞を目指して育てるということでした。

資料館には、キンギョに関係のあるものが、展示されています。キ

ンギョを描いた浮世絵やお皿，キンギョの形の凧(たこ)，今から 250 年も前に書かれたキンギョの飼い方の本などです。昔の品評会でのキンギョ番付表も並んでいました。

ところで，キンギョの町・郡山では，全国金魚すくい選手権大会が開かれます。金魚すくい日本一を決める大会です。今年(平成 19 年)の 8 月 19 日に開かれる大会は 13 回目です。

去年の第 12 回大会では小・中学生 411 人が，3 分間に 1 枚のポイ(すくいあみ)で何匹すくえ



るか競争しました。優勝は郡山の鈴木さんで 49 匹だったそうです。奈良県予選が終わっていますから，今年はだめですが，来年がんばってみませんか。

同じ日，大和郡山・金魚検定が行われます。郡山のこと，金魚のことをどれだけ知っているかというテストです。今年が第 1 回，どんな問題が出るのでしょうか。これにも挑戦してみてください。

金魚すくい大会，郡山・金魚検定の事務局は大和郡山市役所の中にあり，電話 0743-53-1151 内線 563 です。

(やまと・平成 19 年 8 月号所載)

スポットの案内

郡山金魚資料館は，近鉄郡山駅の南西，徒歩約 10 分のやまと錦魚園の中にあります。営業時間は 9:00～17:00，月曜日はお休みにて，入園は無料，電話は 0743-52-3418 です。

理科のワンポイント「水中動物の呼吸」

私たちは生きています限り呼吸をしています。体の中に空気を吸い込み、その中から酸素を取り入れて全身に送ります。そして全身で作られ出された二酸化炭素を集めて、体外に排出します。これが呼吸です。しかし、呼吸にはもう1つの意味があります。それは細胞が酸素を取り入れ、この酸素を使って栄養分からエネルギーを取り出すことです。この2つを区別するために、前者を外呼吸、後者を内呼吸といいます。

話を元に戻しましょう。私たちだけでなく陸上の動物は空気中の酸素を取り入れます。では、水中の動物はどうしているのでしょうか。

水中の動物は水に溶けている酸素を取り入れるのです。下の表は20℃の水 1L に溶ける気体の量(単位は mL)

です。

酸素	31
窒素	16
二酸化炭素	880

水中の動物はこの酸素を体に取り入れます。魚の場合は口から吸い込んだ水がえら(鰓)を通るときに溶けていた酸素が血液中に取り込まれ、これが全身に運ばれるのです。

「大きく息を吸って！」と深呼吸したときに空気を 2L 吸い込んだとすれば含まれている酸素は約 420mL ですが、2L の水に溶けている酸素はわずかに 62mL、こんなことが水中で発生した生物が陸上に進出してきた理由の1つだと考えられています。

水中の動物にとって困ったことがまだあります。それは水に溶ける酸素の量が温度が高くなると少なくなり、気圧が下がると少なくなることです。だから低気圧が接近した気温の高い日というのは金魚にとって大変な日です。水中へ空気が送り込むなどの工夫が十分ではなかった昔、郡山の金魚の養殖池では、そんな日にはたくさんの金魚が浮かんでいるのを目にしたことを思い出します。